

二〇二三年度 同朋大学 社会福祉学部
学校推薦型選抜（公募） 小論文 問題用紙

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二〇〇七年八月――。

岩木山麓のリンゴ畑に木村はいた。

畑の中には微かに酔の匂いが漂っている。午前中に酔を散布したらしい。

鬱蒼と繁るリンゴの葉の向こうで、木村は例の脚立に腰掛けて作業をしていた。地面を見下ろすと、大地が割れて断崖絶壁に座っているように見えたというあの脚立だ。

なんとなく金属製の無骨な脚立を想像していたのだが、木村が座っているのはよく使い込まれた温かみのある木製の脚立だった。脚立の下に妻の美千子がいて、なにやら愉しげに話をしている。

邪魔はしたくなかったけれど、木村に見せたいものがあると言われていた。

「これ、この葉っぱ見てよ。丸く穴があいているでしょう。何だと思えますか？」

木村は、一枚の葉を手にしていた。確かに葉の中央に穴があいている。虫に喰われたのだろうか。そう言うと、木村は嬉しそうに首を横に振った。

「違うの。これはリンゴが自分であけた穴なの。いや私も、最初は虫かなと思って見過ごしていたんだ。だけど、どうもこんな葉の喰い方をする虫はいない。長年、不思議には思っていたんだけどな。ある時、この穴のあいた葉っぱのそばに、斑点落葉病特有の茶色い病斑がついた葉を見つけたのな。あれっ、と思った。それで、その病斑がどうなるか見ていてやろうと思ったわけ。そしたらさ、病気に冒された部分が、カラカラに乾燥していった。葉っぱがそこで水分の供給を絶って、病気を兵糧攻めにしているみたいに見えたな。そのうち、病斑部がぼろりと落ちて、穴があいたというわけだ。それだけではないんだよ。この穴があいてから、葉っぱの横についている小さな葉がどんどん大きくなっていったの。葉っぱを失った分を、補っているわけだ。スケールで計ったんだけど、穴の大きさと葉っぱが大きくなった分がほぼ同じであったな。穴がもつとたくさんあいて、それでは補えなくなると、今度は枝の先に新しい葉っぱを出すんだよ。畑に堆肥をやっていた頃は、病気になってもこんな穴は出来ていなかった。この畑にはぎりぎりの栄養しかないから、リンゴの木が元々持っていた自然の力が引き出されたんだと思うのな。知れば知るほどよ、自然というものはなんとすごいものだと思う。

自然の手伝いをして、その恵みを分けてもらう。それが農業の本当の姿なんだよ。そうあるべき農業の姿だな。今の農業は、残念ながらその姿から外れているよ。ということはさ、いつまでもこのやり方を続けることは出来ないということだよ。昔は私も大規模農法に憧れたけど、その大規模農法地帯はどんどん砂漠化しているわけだからな。アメリカの穀倉地帯も、昔のソ連の集団農場も、今どうなっているか見たらすぐわかる。どんなに科学が進んでも、人間は自然から離れて生きていくことは出来ないんだよ。だって人間そのものが、自然の産物なんだからな。自分は自然の手伝いなんだって、人間が心から思えるかどうか。人間の未来はそこにかかっていると私は思う。決して大袈裟でもなんでもなくな。私に出来るのは、リンゴの木の手伝いをすることだけだ。たいしたことが出来るわけじゃない。だけどそれは人間の将来にとって、きっとためになることだって。これは少々大袈裟だけでもな、でも心の底からそう思うようになったんだ」

（ 中略 ）

エジプトもメソポタミアもインダスも、古代文明の繁栄した土地は、ことごとく砂漠化した。森林を伐採し、破壊し尽くして

しまったからだ。現代人は古代人の思慮の足りなさを笑うかもしれない。けれど、我々が笑っていられるのは、単に化石燃料を使う技術があるからに過ぎない。森林が消えても平気でいられるのは、まだ滅びていない遠くの森林から木々を運ぶことが出来るからだ。ある土地が砂漠化しても、また別の土地を畑にすることが出来るから、何が起きようが知らないふりをしていられる。農業や肥料を与えなければリンゴが実らないのとまったく同じ意味で、現代人は農業や肥料がなければ生きていけなくなっているというのに、そのことの意味を真剣に考える人は少ない。

いつまでもそんなことを続けられるわけがないのだ。

化石燃料が枯渇するのが先か、それとも環境が回復不能なところまで破壊されてしまうのが先かはわからないけれど、いずれにしてもそうなれば、農業や化学肥料が不可欠な現代の農業が破綻することは目に見えている。

(石川拓治『奇跡のリンゴ「絶対不可能」を覆した農家 木村秋則の記録』幻冬舎、2008年より一部改変)

問1 右の文章を読み、筆者の石川拓治は読者に何を伝えたいのか、を150字程度で述べなさい。

問2 傍線部「自然の手伝いをして、その恵みを分けてもらう。それが農業の本当の姿なんだよ。」という記述について、あなたの意見を600字程度で述べなさい。